



地域おこし協力隊着任！

5月16日(月)、地域おこし協力隊の委嘱状交付が町長室にて行われました。地域おこし協力隊とは、地域振興や産業振興の担い手となる人材を都市部から迎え、地域への定着を目指す取り組みで、国が平成21年度から始めた制度です。この日は、第1期生となる隊員、農業振興支援員の藤田岳さん(写真右)、民泊推進専門員の高橋未来さん(写真左から二番目)、地域資源活用事業化支援員の中村悦子さん(写真左)の3名が委嘱状の交付を受けました。3人は、農業の6次産業化や地域資源を活用した商品の開発・販売促進、民泊の受入拡充などを手掛けていきます。新たな力と地域の力を合わせた南三陸町ならではの地域おこしが始まります。

「人権の花」運動で、花植えが行われました

6月8日(水)、戸倉小学校を会場に「人権の花」運動が行われました。この運動は、花を育てることで、命の大切さや相手への思いやりなどの人権意識を高めていくことがねらいです。この日は、人権擁護委員の方々と戸倉小学校・保育所の合同で実施されました。子どもたちは互いに協力をして、サルビアやマリーゴールドなどの約300本の花をプランターに植え、小学校の玄関前などに並べました。今後、子どもたちが交代で水やりや草取りなどのお世話をし、花を育て、自身の心を育んでいきます。



JPFAサッカー教室in南三陸町

6月5日(日)、志津川小学校のグラウンドで、「サッカーの力で日本を元気に!」をスローガンに、日本プロサッカー選手会が主催するサッカー教室が行われました。Jリーグで活躍する現役選手とOBの選手7名が、FC南三陸・FCバリエンテ本吉・FC大谷の3つのサッカーチームの子どもたち約60名にサッカーを教えました。子どもたちは選手たちと一緒にグラウンドを駆け回り、プロの動きを間近に見ながら楽しそうにプレーしていました。

耐性松植樹会

6月4日(土)、歌津尾崎地内においてNPO法人世田谷のみどりと防災を考える会が主催となった植樹会が開催されました。この活動は、世田谷区から南三陸町に派遣職員として来てくださっていた方が、帰任後も南三陸町のために世田谷区の造園協会と協力して実現したものです。当日は、地元の森林組合をはじめとした多くの方の支援のもと、小学生とその親御さんが中心となり、松くい虫に強いとされる耐性クロマツの苗木約500本の植樹を行いました。



台湾との学校間交流

5月20日(金)に志津川高校生が台湾の南投県三育高級中学校の生徒10名と学校交流を行いました。同高校が海外の学校との交流を行ったのは初めてで、震災学習や茶道体験などの活動を通して関係を深めました。同高校生徒会長の大坂日菜さんは、「今回の交流では、震災だけではなく、本来の南三陸の魅力も知ってもらいたいと思いました。学校でも先の台湾内部地震などへの募金活動を行いました。今回の交流を通して台湾との距離が更に近づいたように思います。

交流は、自分たちの視野を広げてくれる良い機会になりました。そして、南三陸町に住む私たちだからこそ伝えられる事があることも再認識しました。これからも、このような活動を通して、世界との繋がりが持てる学校、そして町になっていけたらと思います」と語ってくれました。



志津川高等学校
生徒会長
大坂 日菜さん



熊本へ、教諭2名派遣

6月2日(木)、熊本地震に係る被災地の学校へ町内の教諭が派遣されることを受けた激励会が町長室にて行われました。今回の派遣は、熊本県教育委員会から教職員の長期派遣依頼があったことを受け、宮城県から志津川小学校の仲松主幹教諭と志津川中学校の遠藤養護教諭の2名が熊本県御船町内の小学校に派遣されるものです。この日は、派遣される2名が町長室で意気込みを語り、町長たちから激励を受けました。派遣先では、東日本大震災の経験を活かし、カウンセリング等による児童の心のケアや学習支援、教員へのアドバイス等の活動に従事します。